

第 99 回 地区内中小企業 景気動向調査結果

(平成 25 年 7 月～ 9 月実績)

(平成 25 年 10 月～12 月予想)

***** 目 次 *****

地区内データベース	1
全国 ・ 全道の概況	4
調査の概要	5
全業種総合	6
製造業	9
建設業	11
卸売業	13
小売業	15
サービス業	17
特別調査	19

地区内データベース

1. 人口・世帯数動向 (平成25年9月末)

町村名	人口			世帯数		
	人数	前年同月比	3月末比	世帯数	前年同月比	3月末比
平取町	5,487	-83	23	2,584	-19	19
日高町	13,155	-277	16	6,498	-68	40
新冠町	5,779	-39	-7	2,694	-7	24
新ひだか町	24,811	-286	62	12,222	-18	101
浦河町	13,540	-211	20	6,939	-30	59
様似町	4,854	-158	-33	2,276	-42	-4
えりも町	5,235	-96	14	2,153	-13	26
広尾町	7,658	-150	37	3,497	0	50
大樹町	5,901	-55	-2	2,649	-10	7
日高・十勝地区合計	86,420	-1,355	130	41,512	-207	322
札幌市	1,928,482	7,413	8,818	1,003,669	11,362	9,005
江別市	120,802	-583	-42	54,921	340	451
石狩市	60,081	-452	-194	26,959	198	124
北広島市	59,908	-397	-136	26,475	146	116
恵庭市	68,876	-250	79	31,053	144	169
千歳市	95,387	556	1,215	46,254	673	886
石狩地区合計	2,333,536	6,287	9,740	1,189,331	12,863	10,751
苫小牧市	174,411	-9	499	85,717	931	775
厚真町	4,741	-78	2	2,090	11	24
むかわ町	9,296	-205	-2	4,528	-15	37
胆振地区合計	188,448	-292	499	92,335	927	836
営業区域合計	2,608,404	4,640	10,369	1,323,178	13,583	11,909

(資料出所：各市町村)

*平取町、日高町、えりも町、広尾町の人口に外国人登録者数は含まれていません。

2. 企業倒産状況 (平成25年7～9月中)

千万円

単位：件・千万円	件数	負債金額	件数前年同期比	金額前年同期比
苫小牧管内	3	20	-5	-180
(内・新冠町～えりも町)	0	0	-1	-3
業種および件数	サービス業1件、小売業1件 卸売業1件、			
地区および件数	苫小牧市2件、日高町1件			
北海道	76	1,256	-32	-192
全国	2,664	55,602	-260	-55,934

(資料出所：東京商工リサーチ)

3. 労働需給状況

平成 25 年 7 月

	浦 河 (人・倍)	全 道 (人・倍)	前年同月比(%・ポイント)		前月比(%・ポイント)	
			浦 河	全 道	浦 河	全 道
月間有効求人数	762	74,860	25.54	22.33	9.01	4.15
月間有効求職者数	882	106,243	-11.53	-7.79	-7.16	-4.30
月間有効求人倍率	0.86	0.70	0.25	0.17	0.12	0.05

平成 25 年 8 月

月間有効求人数	764	75,438	22.04	21.31	0.26	0.77
月間有効求職者数	870	102,357	-8.03	-8.07	-1.36	-3.66
月間有効求人倍率	0.88	0.74	0.22	0.18	0.02	0.04

平成 25 年 9 月

月間有効求人数	769	77,418	24.43	18.47	0.65	2.62
月間有効求職者数	891	100,264	-2.94	-7.54	2.41	-2.04
月間有効求人倍率	0.86	0.77	0.19	0.17	-0.02	0.03

(資料出所：浦河公共職業安定所)

4. 浦河町・新ひだか町静内 金融機関預金・貸出金残高 (平成 25 年 9 月末現在)

単位：百万円・%

預 金			貸 出 金		
残 高	前年同月比	前 月 比	貸 出 金	前年同月比	前 月 比
124,131	-0.36	-0.16	52,803	-7.42	3.35

(資料出所：浦河・静内金融協会)

5. 浦河町・新ひだか町静内 手形交換高

平成 25 年 7 月

	当 月	前年同月比 (%)	前月比 (%)
交 換 枚 数 (枚)	560	1.45	76.66
交 換 金 額 (百万円)	990	6.00	-41.43
不渡り手形枚数 (枚)	35	—	-51.39
不渡り手形金額 (百万円)	17	—	-58.54

平成 25 年 8 月

交 換 枚 数 (枚)	353	-17.52	-36.96
交 換 金 額 (百万円)	681	-19.88	-31.21
不渡り手形枚数 (枚)	61	—	74.29
不渡り手形金額 (百万円)	34	—	100.00

平成 25 年 9 月

交 換 枚 数 (枚)	544	115.87	54.11
交 換 金 額 (百万円)	829	26.76	21.73
不渡り手形枚数 (枚)	61	6,000.00	0.00
不渡り手形金額 (百万円)	30	2,900.00	-11.76

(資料出所：浦河・静内金融協会)

6. 新車登録台数（普通・小型乗用、軽自動車(軽トラ含む)）

単位：台

市町村	25年7～9月の登録			本年中の累計(1～9月)	
	台数	前年同期比	前四半期比	台数	前年同期比
平取町	41	-3	-16	166	-4
日高町	122	-21	3	386	-83
新冠町	63	-9	6	184	13
新ひだか町	182	-125	-5	597	-192
浦河町	126	12	22	351	5
様似町	48	8	6	134	-25
えりも町	44	1	0	136	-19
日高振興局管内計	626	-137	16	1,954	-305
室蘭陸運局総計	5,030	340	520	14,506	-634
管内シェア	12.45	-3.82	-1.08	13.47	-1.45

(注) 管内シェアとは、室蘭陸運局登録台数に占める日高振興局管内の登録割合。

(資料出所：自販連室蘭支部、室蘭軽自動車協会)

7. 建築確認申請

単位：件数

		件数	前年同期比	前四半期比
当金庫管内 (新ひだか町～広尾町)	25/7～25/9中の申請	38	-6	14
	25/4～25/9月迄の累計	90	-2	

(資料出所：各町村)

8. 気象情報

平成25年7月中

	本年			平年偏差・平年比		
	気温(℃)	降水量(mm)	日照時間	気温(℃)	降水量(%)	日照時間(%)
浦河	18.7	110.0	153.7	1.5	75.60	140.37
広尾	17.7	247.0	111.7	1.8	143.19	106.79

平成25年8月中

浦河	21.3	214.5	147.0	1.4	134.2	106.9
広尾	19.5	179.5	78.1	1.1	76.9	65.9

平成25年9月中

浦河	18.4	179.0	162.5	1.1	127.0	101.9
広尾	17.3	284.5	121.5	1.3	107.6	89.7

(資料出所：国土交通省 気象庁)

全 国 ・ 全 道 の 概 況

信金中央金庫がまとめた全国の信用金庫の窓口からみた中小企業の景況によると、平成25年7～9月期(今期)の業況判断D Iは△11.5と、前期比4.3ポイント改善した。2四半期続けての一段の改善で、約7年ぶりの水準を回復した。収益面では、前年同期比売上額および収益の判断D Iが、それぞれ△2.7、△9.6と、ともに改善した。また、販売価格判断D Iは0.7と、5年ぶりにプラス転換した。業種別の業況判断D Iは、不動産業を除く5業種で改善した。とりわけ、建設業の改善幅が相対的に大きく、業況判断D Iの水準はおおよそ21年ぶりのプラスに転換した。地域別では、全11地域中、中国を除く10地域で改善した。平成25年10～12月期(来期)の予想業況判断D Iは△6.7と、今期実績比4.8ポイントの改善見通しとなっている。業種別には不動産業を除く5業種で、地域別には北海道を除く10地域で改善の見通しとなっている。

日本銀行札幌支店が10月15日発表した金融経済概況によると、道内の景気は、緩やかに回復しつつある。すなわち、最終需要面の動きをみると、公共投資は、各種経済対策を受けた公共工事発注の本格化から大幅に増加している。設備投資は、緩やかに増加している。住宅投資は、緩やかに持ち直している。個人消費は、消費者マインドの改善に雇用環境の緩やかな改善も加わり、持ち直している。観光は、来道者数が大幅に増加し、宿泊単価も上昇するなど好調に推移している。生産は、国内外需要の増加を背景に、緩やかに増産している。雇用・所得情勢をみると、労働需給は改善している。雇用者所得は、所定外給与が増加しているほか、夏季賞与が前年を上回るなど持ち直しつつある。

需要項目別動向

- 個人消費・・・消費者マインドの改善に雇用環境の緩やかな改善も加わり、持ち直している。この間の一部商品の値上げの影響は特に見られていない。大型小売店売上高は、高額商品の販売、季節行事や記念日などにおける消費が引き続き好調な中、衣料品、食料品など幅広い品目で前年を上回るなど、持ち直している。コンビニエンスストア売上高は、新規出店効果や顧客層の広がりもあって、堅調に推移している。家電販売は、省エネ性能の高い冷蔵庫などの白物家電の売上が好調なほか、薄型テレビの販売減少幅が緩やかになるなど、全体としては下げ止まっている。また、乗用車販売は、消費者マインドの改善を受けて一部高級車に動意がみられる中、新型低燃費車を中心に底堅さを増している。観光については、来道者数が大幅に増加し、宿泊単価も上昇するなど好調に推移している。すなわち、国内道外客は、堅調な旅行需要に加え、航空機材大型化やLCC就航効果もあって、前年を上回っている。この間、高価格帯の客室に宿泊する観光客も増加している。外国人観光客も、アジアを中心とした中間所得者層の増加や北海道人気の高まりもあって、大幅に増加している。また、道内客の国内外への旅行支出も、高価格帯の旅行商品の販売が好調となるなど増加している。
- 公共投資・・・各種経済対策を受けた公共工事発注の本格化から大幅に増加している。公共工事の発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、国の12年度補正予算や13年度本予算の規模拡大を受けた公共工事発注の本格化から大幅に増加している。この間、労務費や資材価格などの建設コストの増加に伴い、落札価格が上昇している。
- 住宅投資・・・緩やかに持ち直している。新設住宅着工戸数をみると、サービス付き高齢者向け住宅供給の一服によって貸家が前年を下回っているものの、持家が堅調に推移していることから、緩やかに持ち直している。
- 雇用・所得・・・労働需給は改善している。雇用者所得は、所定外給与が増加しているほか、夏季賞与が前年を上回るなど持ち直しつつある。有効求人倍率(常用)は、幅広い業種で人手不足感が強まる中、新規求人数が増加していることなどから、前年を上回って推移している。また、雇用者所得は、幅広い業種で所定外給与が増加しているほか、夏季賞与が前年を上回るなど、持ち直しつつある。